

2024年3月2日配布

第344回山口西田読書会（=2024年2月3日開催分）の Protokol

唐露記

1、テキスト

「場所」「五」の第4段落 285頁6行目から 286頁の14行目まで。

2、キーセンテンス

「所謂感覚的なるものも直観的なるものとして、その根柢は所謂意識面を破って真の無の場所に於てあるのである。真に直観的なるものとしては、感覚的なるものは芸術的対象でなければならない。」(286頁11行目～286頁13行目)

3、問い

「感覚的なるもの」はそのおいてある場所が「一般概念」から「真の無の場所」に転ずるとき、「真に直観的なるもの」となる。即ちそれが「芸術的対象」である。その場合、「場所が無となる」。つまり、意識面が自ら無となり、対象が無限の意味をもった対象として自身を見る直観である。この場合で、意識と対象とは一体になるが、なお意識面と対象面との対立はなくなることはなく、意識はなお自由に働くものになっていないのはいか。